

議会だより

第484回西ノ島町議会 9月定例会一般質問（要約）



春員 小島 正 議員

質問 隠岐島消防署島前分署の建て替えについて

建設予定時期及び予定地の選定等、今後隠岐広域連合と協議すると思うが、町の基本的な考えを伺う。

回答 町長

現在、隠岐島内では、西ノ島町にある島前分署と海士町にある海士出張所が手狭で老朽化が顕著である。

こうしたことから、隠岐広域連合では整備の見通しを立てる必要があるが、平成31年3月に本町と島前分署の建て替えについての協議を行なっている。

消防庁舎の建設に係る、所在町村の費用負担は、用地が100%、庁舎及び署員宿舎が90%と大きいため、建設時期に

ついて広域連合が示した、令和5年の供用開始に向けてのスケジュールは将来的な財政状況を勘案し、難しい旨の回答をしている。

また、本年2月に策定された第4次隠岐広域連合広域計画においても、今計画期間中に整備計画を関係町村との調整を図りながら作成することとなり、令和2年度から6年度の計画期間内に建設場所や整備時期等について固めていく。

なお、昨年度策定した本町の中期財政計画では、最終年の令和5年度に、消防庁舎用地費を計上している。

質問 美田コミュニティセンターの遊具設置について

回答 町長

平成30年12月定例会での、議員からの一般質問以前に小向区から美田コミュニティセンターへの遊具の設置について要望があり、子育てサロンの利用者、小向区、社会福祉協議会等の意見も伺いながら、

これまで検討を行ってきた。

その過程で、有効な財源が無いことや管理・安全面の理由などから一度見送った経緯がある。その後、中学生以下の子どものいる子育て世帯へのアンケート結果や、現在の芝生利用者の意見を踏まえ協議した結果、遊具の設置は行わず、ベンチのみを設置する予定である。



典員 松新 俊 議員

質問 西ノ島総合公園多目的広場周辺の維持管理について

回答 教育長

総合公園の管理については、議会でもたびたび指摘を受けており、指定管理業者に管理の徹底を指導してきたが、建物の老朽化と同様に外周の樹木や雑木の繁茂が著しく、今の人員では手におえない状況にある。

総合公園は昭和63年完成以降、様々なスポーツ大会などに利用されてきたが、近年では、利用者の高齢化や人口減少に加え、趣味趣向も変わり、建設当時盛ん

に行われていた野球をはじめ、ゲートボール、ターゲットバードゴルフ、などが廃れ、多目的広場の利用が少なくなったことも管理が行き届かなくなった要因の一つとなっている。

教育委員会では、毎月1回の点検を行い、利用するうえで支障をきたしている樹木の伐採等の管理については、随時、早急に対応しているが、至らない点が多々あることは承知している。

来年度は役場新庁舎も完成し、公園付近の人々の往來の増加が予想されるので、これを機会に、公園全体の長寿命化計画の作成を来年度予定している。この計画には、公園の景観も盛り込んだものにしたいと考えており、施設の適切な管理を行い町民の憩いの場につながるよう検討していく。





谷 実員
竹 議

質問 工事後の環境の変化について

最近、美田湾、外浜海水浴場等が降雨によって褐色に染まる状況をよく目にする。

また、海水浴場やイザナギ浜の海底には泥が沈殿し、時化た際に濁った様子も見られる。その要因の一つに工事等が考えられるが、現状を改善する対応として次の2件についてたずねる。

1. 美田湾に4か所ある川の河口付近に、常時汚濁防止フェンスを設置することについて。

回答 町長

降雨時の泥水が流出する原因としては、河川等の上流域で山林等にしみ込んだ雨が浸透し、土砂などと一緒になって河川等へ流れ、最終的に海へ流れるものである。

一以前に比べて、海が褐色に染まる状況が年々ひどくなっているとの指摘であるが、現在では、道路や河川、砂防施設等

のインフラ整備が進み、昔のように舗装されていない道路や河川が未整備であった時代に比べ、海へ流れる土砂は少なくなっているものと思っており、長雨や激しい雨が降り続いた後には、泥水等で海が濁るのは、避けられないことである。

また、通常、泥水が流出するような公共工事では、海面の汚濁及び周辺状況に配慮して、工事期間中に河川等の河口付近へ汚濁防止フェンスを設置する等の対策を講じている。

「常時汚濁防止フェンスを設置すること」について、降雨時に泥水が流入することは、美田湾に限らず、別の地域でも起こることで、泥水の流出を完全に防止できるものではなく、設置することは考えていない。

仮に設置した場合には、流木やゴミが溜まるなどの支障をきたすほか、船舶利用者にとっても船の係留や停泊の支障になることなどが予想される。

現在、山林の利活用も少なくなり、荒廃している状況もあって、森林が持つべき水源涵養機能の低下や山林所有者の管理が難しくなっているなど、泥水の原因の一つとして考えられるので、その点も十分に理解いただきたい。

2. 工完了後の確認状況について。

回答 町長

これまで美田地域では、ため池廃止工事を4か所実施しており、この工事は、地震又は豪雨時において決壊が見込まれる「ため池」を島根県が防災重点ため池として指定し、町が防災上の観点から廃止を行っており、事業完了箇所では、工事前後において必要な状況把握や確認をしている。



保 員
東 議

質問 小中一貫教育関連について

1. 社会体育との連携を考えながら、部活動も高学年くらいから指導してはどうか。

回答 教育長

昨年、保護者及び教職員にアンケート調査を行い、意見を伺ったところ、小学校高学年（5年生）から部活動を始めることによって、体力や技術を伸ばすことや、小学校の教員も顧問に加わることで、

中学校の負担が減ることなどのメリットはあるが、限られた時間の中で何を優先するか検討した結果、小中一貫教育では、子どもたちの学力向上を重点目標としていることと、高学年の子どもたちは年間を通して行事が多いことから、小学校からの部活動は時期尚早との結論が出された。

なお、現在、中学校には3つの部活動があるが、いずれも小学生から社会体育として取り組んでおり、中学における部活動の強化にも少なからず繋がっているものと思っている。

2. 小1プロブレムを考え、年長園児と小学1年生との合同活動などの実施について。

回答 教育長

保小連携の重要性は十分認識しており、小中一貫教育の指導上の重点項目に「保育園との円滑な接続」を掲げている。これについては、昨年から両保育園との連絡会や交流会も増やし、連携を深めるよう取り組んでいる。

また、近年、特別な支援が必要な子どもが増加傾向にあることから、教育委員会と健康福祉課及び保育園とが情報を共有していくために、定期的な会合や、事案発生時にはいつでも集まる体制を整